

(ア) 「素読暗唱」指導方針と基本カリキュラム

教育支援協会の素読暗唱活動で使用する「文章素材」は、昔の小学校で使われていた唱歌の歌詞から始めて、高等学校で習う古文や漢文まで、多様なものが使われます。そのため、保護者の多くは「こんな難しいものを子どもたちにできるのだろうか」という危惧をもたれます。しかし、こうした心配は子どもたちがいとも簡単に暗唱して見せることで必ず杞憂に終わります。それが大人を勇気づけてくれます、「子どもたちはたいした能力をもっている」と。

そうすると今度は、「意味もわからずにただ暗唱して、何か役に立つのか」という疑問を持つ方が出てきます。確かに、これは保護者の方々だけでなく、多くの暗唱指導をやってみようとする指導者も抱える疑問のようです。そのため、多くの指導者は「暗唱できたら、意味を教えたい」と考え、保護者の多くは「暗唱できたら、意味も教えてほしい」ということになります。「子どもたちに意味を教える」そのことで安心するのは大人の性（サガ）みたいなもので、そうした「親切心」が子どもたちには「あだ」になるということがなかなかわかっていただけません。

素読の活動では「意味」などはどうでもいいことなのです。問題なのは暗唱する子どもたちが「面白い」と感じるかどうかです。ただ、「面白いね」「楽しいね」と、それでいいのです。もちろん、子どもたちが「これはどういう意味？」と聞けば、「これはね」と教えることはかまいませんが、子どもたちはたいてい「ふ〜ん、そうか」というだけで、そこから何か生まれることは期待しないほうがいいと思います。

この素読暗唱活動という学習プログラムを理解していただくために、少し「国語」という教科について考えて見ます。

「国語」という教科が成立した明治期において、西洋で「母国語」の授業があるのを真似しようとしたのですが、どうしていいのかわかにもわからなかったようです。とりあえず国語の教師が必要だからということで、神主さんだったら文を書いているということで、学校で教えたという記録があるほどです。

その後、言文一致運動などを経て、小学校ではつづり方運動などの影響から「読み・書き」を基本とした国語教育が定着し、中・高等教育では漢文・古文を中心とした国語教育が進みます。そして、戦後になって中・高等教育では「現代国語」という考えから、文学作品を素材とする教養主義の影響が強くなります。その中では客観的な読み方、つまり誰が読んでも同じ答が出るような「正しい読解」が重視されるようになりました。

この中・高等教育での国語教育の影響から小学校においても「客観的な読み方」「正しい読解」が重視されるようになり、特に1970年代以後に低年齢化する受験指導の影響もあって、この方法が徹底されるようになります。大学入試における読解法の指導を小学生の指導に用いられるようになったわけです。

物事に対する感受性が強く、自由な発想ができる小学生にこのような国語教育を行うことは、表現力の低下はもちろん、国語という教科が嫌いな小学生を多く作り出しました。ここには今の日本における国語教育の大きな問題が横たわっています。

まず、国語教育に使われる素材の量の問題です。従来の日本における国語教育は「教科書」を金科玉条のものとし、教科書を学び、教科書に載っている文章を読み取り、作者の意図を理解することがイコール国語の学習でした。そのため最近では、「教科書の軽量化が一層進み、教科書だけしっかりやれば必要な学力が育成されるということは保障されなくなった。」という「ゆとり教育批判」が横行しています。

確かに、社会にとって子どもたちにどうしても身につけてもらいたいこと、必要なことを削減するのは問題ですが、「本当にそれは必要なことなのか」と考えてみると、案外そうでもないことが義務教育内容にはとても多いのです。ある学者にとって「どうしても身につけさせたい」ということを並べていくと、とても学校だけではこなせないほどの物語や小説、論説などがあがってきます。確かに一つ一つはいい物語だったり、文章だったりします。しかし、それを全て子どもたちに強要することは本当にいいことなのでしょう。それで子

どもたちはそうした物語や文章に意欲をもって取り組むのでしょうか。国語力をつけるためには、そうした「これは大切だから読んで理解させる」という方法ではとても国語教育の成果を挙げることはできないと思います。

ですから、学校での学習義務内容が軽減されることは「規制の緩和」として好ましいことだと考え、国のレベルで「義務」とすべきものはできる限り厳選し、それ以外は学校や家庭が判断する、できれば子どもたちが自分で選ぶようにして、「この本を読ませたい」「この本が読みたい」ということをスタート地点にしたほうがいいのではないのでしょうか。そして、学校や家庭が必要と判断したのであれば、学校や家庭が責任を持って身につくように指導し、子どもたちが「これを読みたい」というのであれば、それを読ませるほうが教育効果は上がるはずです。そして、それを学校で徹底してやり、家庭でも責任をもってやるというので不十分であれば、それを地域教育がサポートするというのが一番いいはずです。量の問題は「義務として与える量」を減らし、「自分で選ぶ量」を増やすというほうがいいはずです。

現在の国語教育の問題点はもう1つあります。「意味の理解」に重点が置かれすぎることです。子どもたちが「よくわからない」と言えば、先生はすぐに説明しないとイケない、説明しない先生はよい先生ではないと思われるがちです。そのため、子どもたちにわかりやすい素材を選び、わかりやすく教えることが教育現場ではもとめられます。

確かに、算数〔数学〕などはそうしたほうがよい場合が多くあります。算数〔数学〕という教科は体系的論理構造をもった教科です。このことがわかっていないと次のことができないというように、積み上げ的に学んでいくことが多くあります。そのため、子どもたちが「よくわからない」と言えば、先生はわかりやすく説明し、子どもたちはそれを理解して次に進むということができるようになります。

しかし、国語はそういう教科ではありません。初等教育段階では、この物語を理解するためにはこの物語を理解しておかないとイケないということはほとんどありませんし、万葉集を読むためには現代短歌をマスターしないとイケないということもありません。第一、意味を理解しないと万葉集を読む価値がないという考え方がおかしいのではないのでしょうか。「よくわからないけど、なんだかいいな」ということはイケないことなのではないのでしょうか。詩の暗唱をして、それをいちいち説明しないのは詩の読み方としてイケないことなのではないのでしょうか。もちろん、解った方がいいのかもしれませんが、そのために素材を限定するのではなく、意味はよくわからないけど、暗唱して面白いなら、それを暗唱するということが言語教育では大切なことです。文字が読めたほうがいいでしょうが、読めないのであれば、先生の後について読んで、それを覚えてしまうという教育方法は江戸時代には確立した初等教育のあり方です。この方法は、「意味の理解」を重視した国語教育が主流である今は姿を消しましたが、国語教育における伝統的に大切な指導方法です。

こういった観点から、小学生に対する国語教育を、「国語」という教科の枠や「客観的読解中心」にとらわれず、文章を楽しむ、言語の音を楽しむといったとらえ方から国語教育を考えたのが、素読暗唱活動の基本的な考え方です。

「素読などは学校でやりたいけれど、時間がない」というのも確かです。もちろん、学校が何でも引き受けることは必要ありません。地域教育の価値は、多くの親がその価値を認め、自分の子どもにはそれを受けさせたいという、「個人のニーズ」に応えるところにあります。

ですから、みんながやらないけれども「意味も解らず、大きな声で難しい古文や漢文を暗唱する」ということをうちの家庭ではやらせたいという方々を対象に、学校教育ではなく、地域教育として取り組んでいきたいと考えます。

素読暗唱年間基本カリキュラム

下に示したのは基本的な素材例と活動です。素読暗唱にはいろいろなよい素材がありますが、大人がよいと思っても、何回かやって子どもたちの関心を示さなかった場合はすぐに変えたほうがいいので、いろいろな素材を用意しておく必要がありますし、集まった学年や子どもたちの関心に応じて素材は変更することになります。

また、活動を重ねる中で素材は新しいものを付け加えていきますが、前にやったものはできるだけ繰り返すようにして、覚えたものを繰り返すことの面白さを味わわせます。飽きてきたら、活動の終わりにはかるたや坊主めくりなどのゲームを組み入れていくことも必要です。

	季節	素読素材	付帯活動①	付帯活動②
1	春	ソーダ村の村長さん・よいさっさ	坊主めくり	慣用句
2		ソーダ村の村長さん・よいさっさ	坊主めくり	慣用句
3		ソーダ村の村長さん・へんなまち	坊主めくり	慣用句
4		ソーダ村の村長さん・へんなまち	坊主めくり	慣用句
5		あめんぼのうた・尋胡隠君	ことわざカルタ	四字熟語
6		あめんぼのうた・尋胡隠君	ことわざカルタ	四字熟語
7		あめんぼのうた・ちやつみ	ことわざカルタ	四字熟語
8		あめんぼのうた・ちやつみ	ことわざカルタ	四字熟語
9	夏	アメニモマケズ・早口言葉	文字合わせ	ことわざ
10		アメニモマケズ・早口言葉	文字合わせ	ことわざ
11		アメニモマケズ・早口言葉	文字合わせ	ことわざ
12		サーカス・よいさっさ	いろはカルタ	小林一茶
13		サーカス・よいさっさ	いろはカルタ	小林一茶
14		サーカス・へんなまち	いろはカルタ	小林一茶
15		サーカス・へんなまち	いろはカルタ	小林一茶
16	秋	ひびのおしえ・むしのこえ	文字合わせ	慣用句
17		ひびのおしえ・むしのこえ	文字合わせ	慣用句
18		ひびのおしえ・むしのこえ	文字合わせ	慣用句
19		枕草子・かっぱ	ことわざカルタ	四字熟語
20		枕草子・かっぱ	ことわざカルタ	四字熟語
21		枕草子・かっぱ	ことわざカルタ	四字熟語
22		枕草子・尋胡隠君	ことわざカルタ	四字熟語
23	冬	初恋・尋胡隠君	坊主めくり	ことわざ
24		初恋・たきび	坊主めくり	ことわざ
25		初恋・たきび	坊主めくり	ことわざ
26		初恋・たきび	坊主めくり	ことわざ
27		平家ものがたり・つけたし言葉	百人一首	俳句
28		平家ものがたり・つけたし言葉	百人一首	俳句
29		平家ものがたり・つけたし言葉	百人一首	俳句
30		方丈記・たけとりものがたり	百人一首	慣用句2
31		方丈記・たけとりものがたり	百人一首	慣用句2
32		春望・漢文	百人一首	慣用句2
33		春望・漢文	百人一首	慣用句2
34	まとめ	方丈記・たけとりものがたり	文字合わせ	四字熟語2
35		方丈記・たけとりものがたり	文字合わせ	四字熟語2
36		春望・漢文	文字合わせ	四字熟語2
37		春望・漢文	文字合わせ	四字熟語2
38		千字文・まとめ	リクエスト	小林一茶
39		千字文・まとめ	リクエスト	小林一茶
40		千字文・まとめ	リクエスト	小林一茶